

2030年の目指すべき状況に向けた マイルストーン、タイムスケジュール等の検討



令和5年12月11日

内閣府

科学技術・イノベーション推進事務局

1. 評価指標

(1) 国際競争が激化する中、産業競争力強化の視点から、2030年目標を策定

<量子未来社会ビジョン>

- 国内の量子技術の利用者を1,000万人に
- 量子技術による生産額を50兆円規模に
- 未来市場を切り拓く量子ユニコーンベンチャー企業を創出

(2) 目標の実現に向け、実用化・産業化の戦略を策定

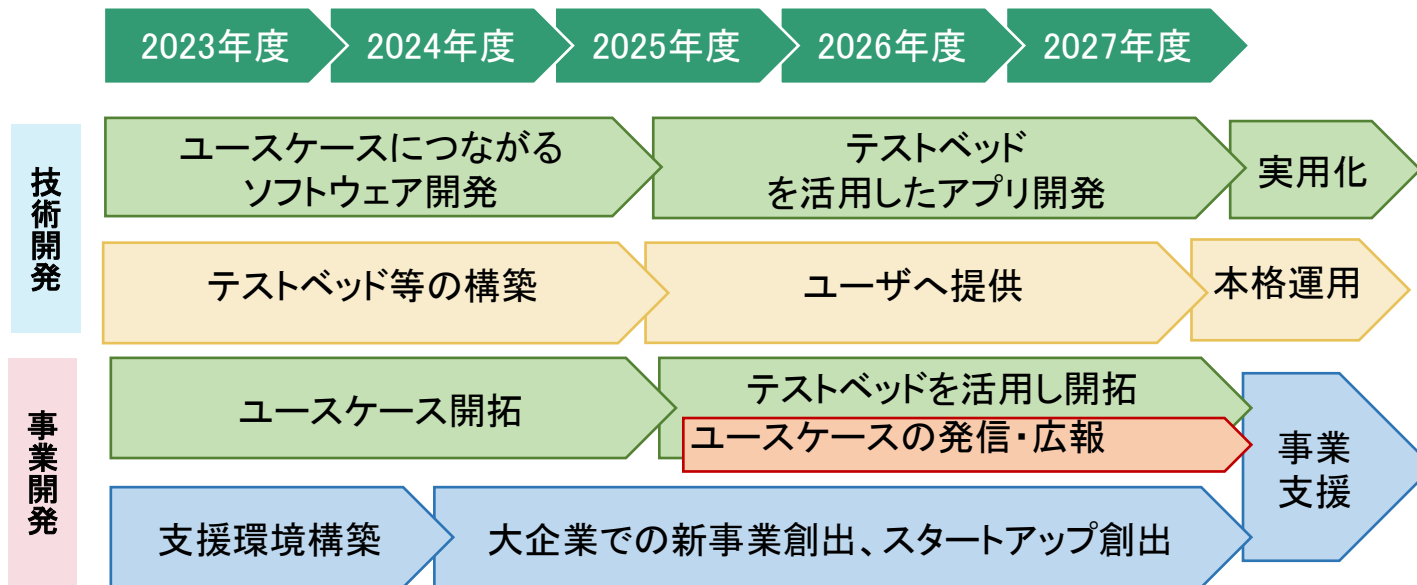
<量子未来産業創出戦略>

- 産学官連携による産業化
- 利用環境の整備
- SU・新事業創出の支援

<指標>

- ☆ 利用者数
- ☆ 生産額
- ☆ SU・新事業数

【参考例】量子コンピューティングの場合



2030年目標

国内の量子技術の利用者を1,000万人に



量子技術による生産額を50兆円規模に



未来市場を切り拓く量子ユニコーンベンチャー企業を創出



	あるべき状態	調査指標
Collaboration 産学官連携による産業化	ユーザ企業が優良アプリを使える	量子アプリが寄与する生産額
Accessibility 利用環境の整備	計算環境が整っている ・計算資源 ・国内設備	提供企業数 量子アプリ提供企業の生産額
Incubation SU・新事業創出支援	エコシステムができている	調達資金額(投資額)

2. 2030年目標に向けた指標、マイルストーン

指標	2023年	2026年	2028年	2030年
(1)利用者数[万人]	?	40	100	1,000
(2)量子技術による生産額[兆円]	2	3	15	50
(3)SU・新事業の数[社]	10	20	30	120
※ユニコーン候補[社]	5	6	8	12

【参考】 指標、マイルストーンの具体化

(1) 指標

国際競争が激化する中、産業競争力強化の視点から、2030年目標を策定

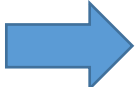
<量子未来社会ビジョン>

- 国内の量子技術の利用者を1,000万人に
- 量子技術による生産額を50兆円規模に
- 未来市場を切り拓く量子ユニコーンベンチャー企業を創出

この目標の実現に向けた、方針や実行計画を示した戦略を策定

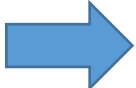
<量子未来産業創出戦略>

- 産学官連携による産業化
- 利用環境の整備
- SU・新事業創出

 『目標（アウトカム）に向けた具体的な指標（アウトプット）』を定義

(2) 代表的なアウトカム・アウトプットで、マイルストーンを設定

『量子技術の活用による産業競争力の維持』

-  ①量子アプリケーションの提供と利活用
②量子コンピュータの実用化と計算資源の確保

『経済安全保障の確保』

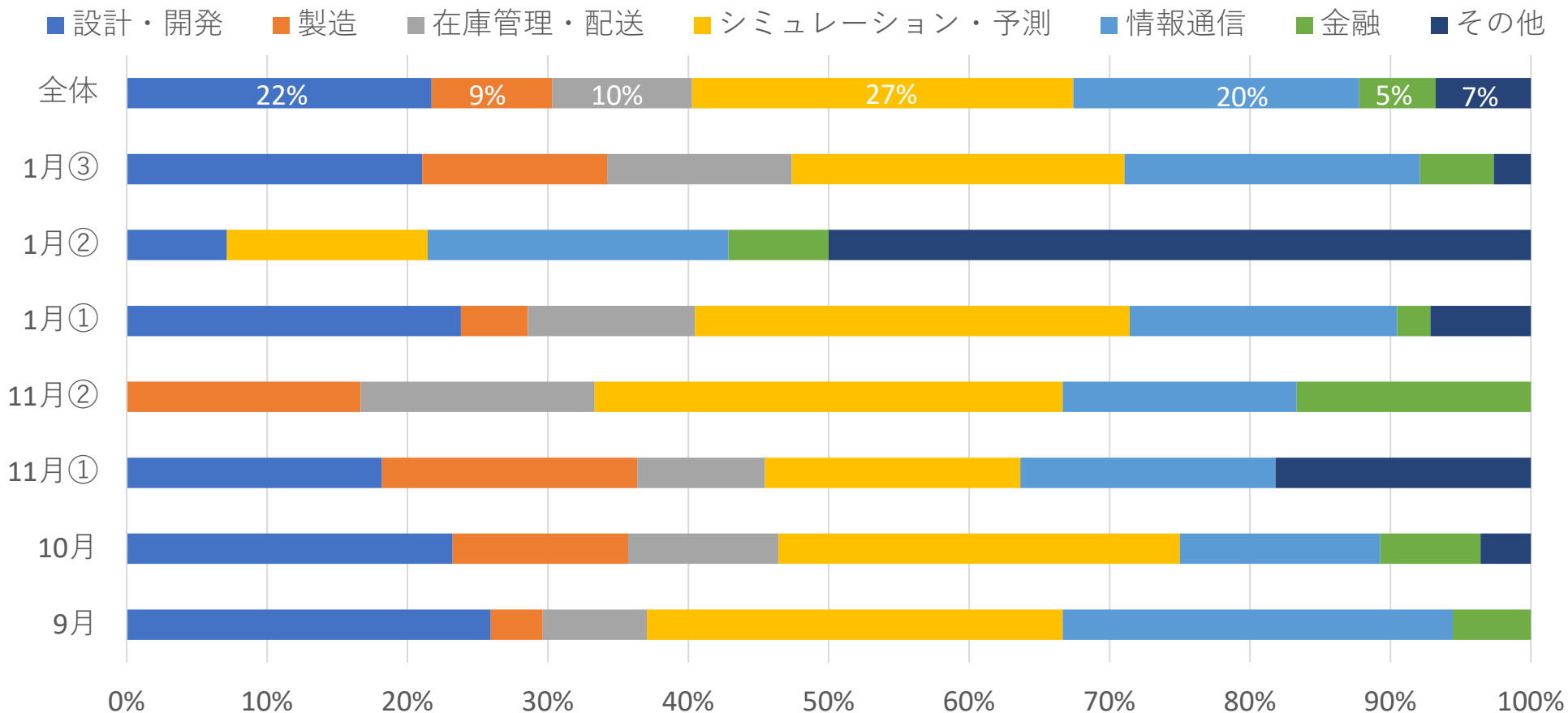
- ①計算資源を提供する国内ベンダーの育成
②高性能・高信頼・高セキュアな通信資源を提供する国内ベンダーの育成

【参考】量子技術の活用が想定されるビジネスシーン

- 量子技術研究会*の参加者にアンケートを実施 *量子技術の動向把握を目的に開催（R4年9月～R5年1月）
- 「シミュレーション・予測」に次いで「設計・開発」、「情報通信」の順

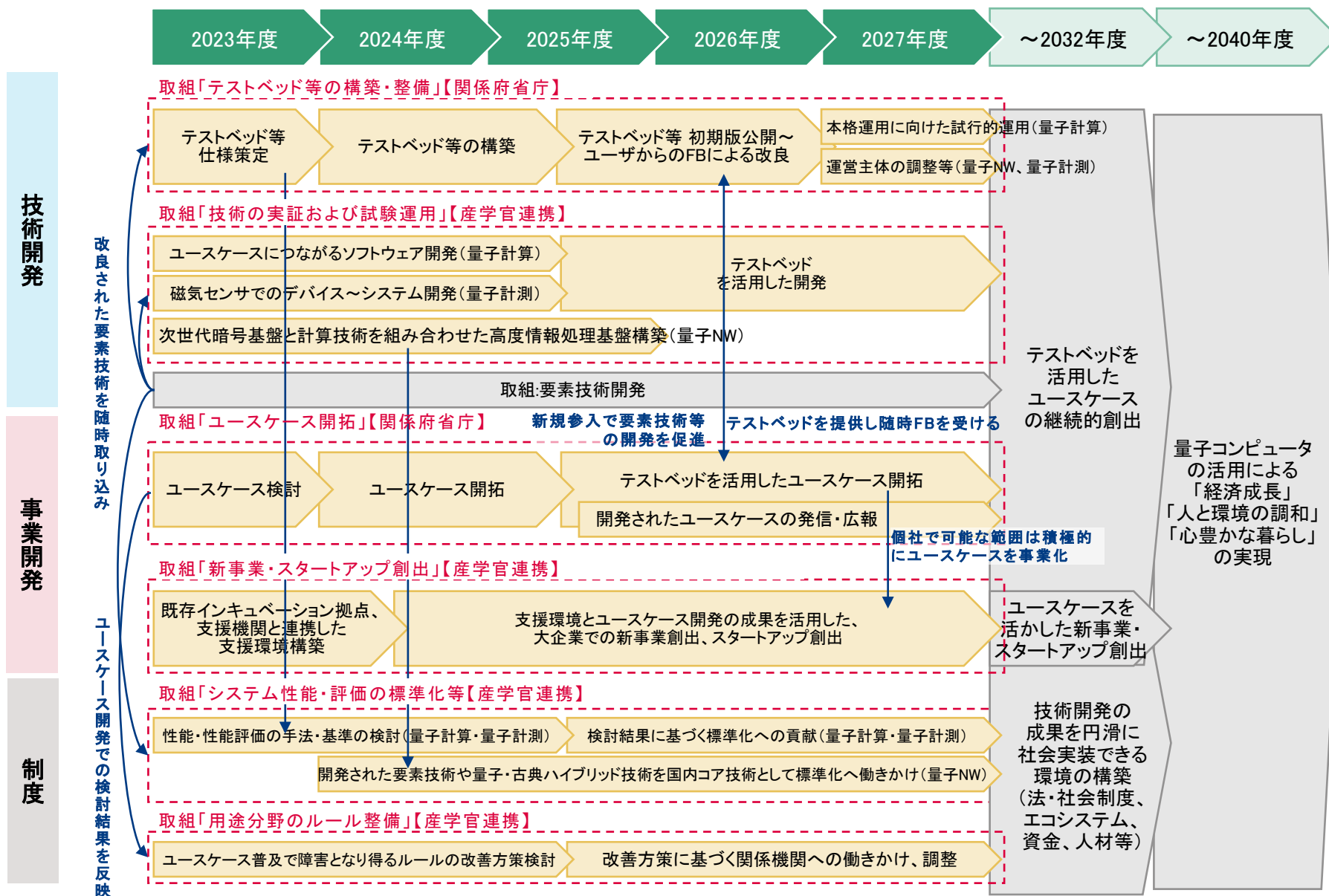
※「令和4年度 量子技術の研究開発全体を俯瞰したロードマップの見直しに係る調査」

想定ビジネスシーン（アンケート） ※複数項目回答可



製造業、サービス業におけるニーズが大

【参考】SIP3「先進的量子技術基盤の社会課題への応用促進」工程表（抜粋）



2030年、「国内の量子技術利用者1,000万人」、「量子技術による生産額50兆円規模」、「ユニコーンベンチャー企業を創出」